

文化財担当者研修のすすめ

～よりよい文化財行政のために～



写真：在りし日の旧研修棟と
現在の研究所仮庁舎多目的利用室
(平成 30 年春開庁をめぐって新庁舎を建設中)



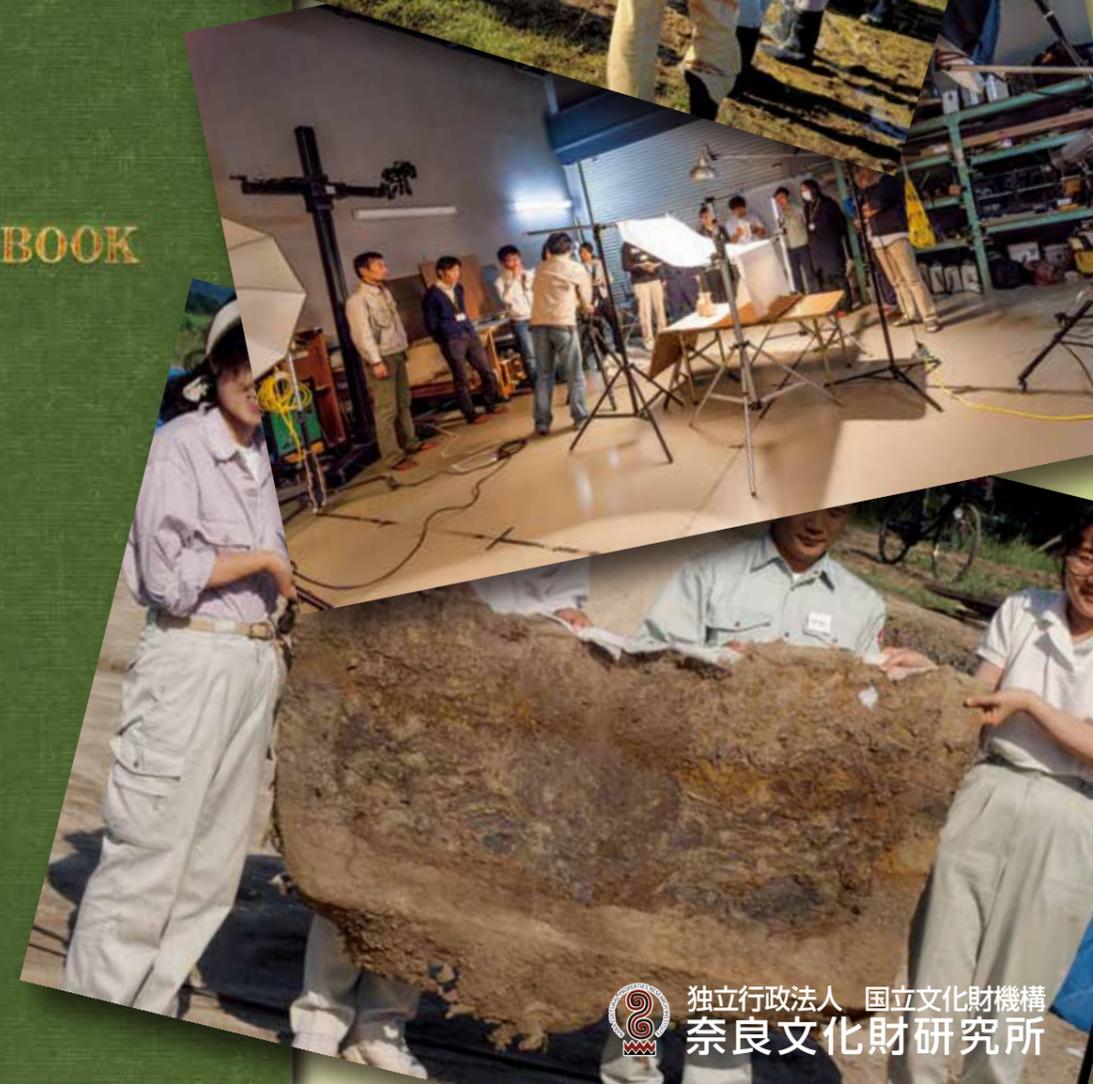
平成29年度 文化財担当者研修課程一覧(予定)

区 分	専 門 研 修															
課 程	建築遺構	遺跡活用	建造物保存	出土品管理	災害復旧	発掘調査	記録整理	文化的景観	三次元計測	元保存科学	古代・中近世	文化財調査	報告書編集	デジタル名勝	保存科学	
副 題	建築遺構や出土文化財建造物出土品の管理、様々な災害の遺跡・遺物の科学的記録を3D計測を有機質遺物の古代・近世まで正しく的確な報告書作成のデジタル編集の名勝保護の脆弱遺物の部材を理解する保存活用する活用、展示場を理解する発掘調査の活用をおこなうために保存と保管の瓦の調査法記録写真撮影基礎知識応急処置															
実施期日	6月12日～ 6月16日	6月19日～ 6月23日	7月10日～ 7月14日	7月24日～ 7月28日	9月12日～ 9月15日	9月20日～ 9月22日	9月25日～ 9月29日	10月10日～ 10月18日	10月13日～ 11月17日	11月27日～ 12月7日	12月7日～ 12月14日	12月14日～ 12月21日	1月15日～ 1月19日	2月13日～ 2月16日		
定 員	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	
対 象	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに係る者															
内 容	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関する必要知識や発掘方法などについて研修。	文化財建造物の保護行政をおこなうための文化財建造物に関する基礎、および文化財建造物の保存・活用に関する基礎的知識の習得を目的とする研修。	発掘調査報告書公開後に求められる、出土品の有効かつ効率的な管理から活用、展示に関する基礎的知識の習得を目的とする研修。	地震、津波、火災などの災害痕跡を調査するための専門的知識と調査方法取得することを目的とした研修。	遺跡・遺物の正確な記録とその保存方法として、GISやデータベースの活用、遺跡情報の公開に必要な知識の習得を目的とする研修。	文化的景観の取組んでいる担当者対象とし、文化的景観の整備活用に関する知識の習得を目的とする研修。	三次元計測の活用に関する基礎的知識と技術の習得を目的とする研修。	出土有機質遺物の一時保管方法について基礎的知識と技術の習得を目的とする研修。	古代・中近世遺跡出土瓦の調査研究に関する基礎的知識と技術の習得を目的とする研修。	文化財の記録の取組に必要な知識と技術の習得を目的とする研修。	文化財調査記録の必要不可欠な写真撮影について、様々な文化財の調査記録の基礎知識を習得するための研修。	報告書出版に必要な編集やコンテンツ制作の技術について、デジタル編集を中心に習得するための研修。	名勝の概念、調査、保存管理、修復、整備、庭園史等について、基本的な考え方を習得するための研修。	脆弱遺物の取組方法から、保存処理までの時間的・経済的負担を軽減するための研修。		
申込締切予定日	平成29年4月28日(金)	平成29年5月2日(火)	平成29年5月26日(金)	平成29年6月9日(金)	平成29年7月28日(金)	平成29年8月4日(金)	平成29年8月10日(木)	平成29年8月25日(金)	平成29年9月29日(金)	平成29年10月13日(金)	平成29年10月24日(火)	平成29年10月31日(火)	平成29年12月1日(金)	平成29年12月27日(木)		

※1 各研修はリニューアルが図られています。
 ※2 募集は各都府県及び政令指定都市教育委員会を通じて行われます。
 ※3 研修参加決定通知は研修開始日の約1ヶ月前に通知の予定です。
 ※4 文化財写真記録・報告書編集基礎講座・報告書デジタル作成講座は、続けて受講することができます。

研修案内 URL <http://www.nabunken.go.jp/fukyu/kensyu.html>

SKETCH BOOK





特別史跡平城宮跡のかたわらに所在する奈良文化財研究所(通称:奈文研)は、国立博物館、東京文化財研究所とともに独立行政法人国立文化財機構を構成する、日本を代表する文化財関連の調査研究機関です。

昭和27年に設立された奈良国立文化財研究所を前身とし、「文化財行政に資する研究をおこなう」をモットーに、奈良県下の恵まれた歴史的環境に包まれながら、考古学、保存科学や年輪年代学などの考古科学、建造物、文化的景観、計測修景など、不動産文化財を中心とする文化財を対象とした最先端の調査と研究をおこなっています。

文化財担当者研修



昭和41年から文化財保護委員会(現・文化庁)と共催していた発掘調査研修がはじまりです。昭和49年からは奈文研に設置された埋蔵文化財センターが引き継いで開催してきました。現在は、奈文研の研究分野の広がり、行政が対応すべき文化財の多様化にともなって、埋蔵文化財ばかりでなく、古文書、災害痕跡、文化的景観などの研修もおこなう「文化財担当者研修」として実施しています。昭和49年から平成28年までの累計受講者数は9312人。昨年度の受講者は167人で、100%の方々から、「有意義だった」、「役に立った」との御回答を受けています。

この研修は、文化庁とも連携しながら、全国の地方公共団体の文化財担当職員を受け入れ、最先端の研究にもとづく講義と実習を通じて受講者のスキルアップを図り、各地の文化財行政の足腰を強め、その一層の向上と充実につなげることを企図しています。また、開講課程や内容は随時変更し、その時々各地の地方公共団体が抱える課題に対応させています。講師は、奈文研の研究職員のほか、各分野での第一人者、時には文化庁文化財調査官が務めます。

研修後のアフターケアも万全で、課題や疑問に対しては、研修担当者・担当室が親身に対応いたします。また、同じ研修を受講したことをきっかけに、奈文研や同様の課題を抱える全国の担当職員との間にネットワークが生まれ、これを通じて、問題意識が共有され、課題の解消のヒントやアドバイス、ノウハウを得られることもしばしば。これも研修受講のメリットの1つです。



課程紹介

災害痕跡調査課程 2011年の東日本大震災以降、過去の地震や津波などの災害痕跡が全国で多く見つかリ、注目されています。こうした痕跡については、発掘調査現場での記録が何よりも重要です。そこで、本課程では、発掘調査現場において「災害痕跡をどのように把握して、どのように記録するのか」を中心に研修をおこないます。

講義では、実際の調査事例も紹介して具体的に議論します。奈文研で進めている「歴史災害痕跡データベース」事業を活かして、研修生の勤務する地域に即した課題も取り上げる予定です。また、自然堆積の地層の見方を学ぶ機会がまれであるという文化財担当者の現状を考慮して、災害痕跡を理解する際の基礎となる地質学や地理学についても研修します。その際には、災害痕跡を含む様々な自然堆積の剥ぎ取り資料を使って、みんなで議論していきます。



災害痕跡調査課程 剥ぎ取り標本を観察する

文化的景観整備活用課程 文化的景観整備活用課程は、平成29年度に新たに開講されるものです。重要文化的景観に選定されたけれども、そのあとの整備や活用をどのように進めたいかわからないという声をよく聞きます。この研修はそうした声に応えたものです。

本課程では、建築や土木などの専門の立場からの整備に関する講義のほか、重要文化的景観選定地の担当者の方々からの実践例もお話いただきます。また、研修生自身 が抱える課題を材料にした議論の場 も設けたいと考えています。



研修生同士での議論

受講生の声



平成28年度地質考古調査課程のみなさん

基礎から応用まで一通り学ぶことができ、大変有意義であった。

講義のコンセプトと講義内容がリンクしていて今後ひとつずつつなげていきたいと考えています。

どの講義も非常に良い刺激を受けました。景観復原に必要な情報が分かりやすくまとめられていて良いと思いました。簡単にはできないと思いますが、実践につなげていきたいです。

